

新入生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。またご父母、ご関係の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。本日、皆さんが一堂にこの会場に集まり、入学の喜びを分かち合えることを大変うれしく思います。

皆さんの上智大学ならびに上智大学大学院への入学には、様々な意味づけが可能です。今学びたい学問を、その専門性を深めたいという動機が、皆さんの一番直接的な上智大学への進学の意味と位置付けられているのではないかと思います。小学校、中学校また高等学校など、これまでの学びの中で、興味、関心を抱いた対象に対して、さらなる探究を目指すその姿勢は、賞賛に値するものだと思います。本日はその動機を尊重しつつ、皆さんに別の視点からの上智大学入学の意味をお伝えしたいと思います。

皆さんが学ぶ意味は、知識を蓄積、集積することが最終の目標ではありません。そして大学という場もそのためだけに存在するわけではありません。上智大学という場は、皆さんに対して、人間の成長という観点から学ぶ環境を提供しています。1人の人間の成長はどのように果たされるのか、個人と他者との関係性はどのようにあるべきか、個人と社会との関係性の中でどのように自分の役割を見出せるのか、さらには社会における弱者に対してどのような眼差しを持って寄り添うことができるのか、と言った問いかけがこのキャンパスには常に提起されています。これらの問いかけに自分なりの解を見出そうとすると、一筋縄ではいかないことがわかります。私自身もいまだに自分らしい答えを提示できずにいます。公約数的な答えは用意できているのですが、それは私の答えではないと感じます。

これらの問いに向き合おうとするとき、私たちは人間の存在について考え、経済、政治、福祉、文化などに代表される社会の構造を知り、人間社会の歴史を紐解きながら、今生きる社会における課題を認識し、その解決がどのように果たされるべきかを学ばなくてはなりません。もうおわかりいただけたと思いますが、自分の関心事だけではこれらの解を探すことはできないのです。

私は大学生、あるいは大学院生として自由度のある学びの機会を得た皆さんに、専門性を高め、教養を深め、コミュニケーション力を磨く中で、いかに自分の個性を発揮しながらこれらの解に近づくのか、挑戦してもらいたいと思います。上智大学のキャンパス環境を、私たちはグローバルワンキャンパスと呼んでいます。世界に400を超えるパートナー大学を有し、90カ国以上から留学生が集まるグローバルな環境がここにあります。文化、宗教、政治形態、言語などの多様なバックグラウンドを持つ学生、教職員が集い、その多様性の中で議論の場が展開されます。もちろん皆さんがそれを求めることが必要ですが。異質との触れ合いは、皆さんに新しい成長の動機、価値観、そして人生の展望を与えることでしょう。先ほどお伝えした生涯をかけて考えるべき課題に対しても様々なヒントがもたらされると思います。

一方グローバルワンキャンパスが言う、ワンキャンパスとは、一つのキャンパスに全ての学部、研究科が結集した環境を指しています。構成員のバックグラウンドの多様性だけでなく、学術的な多様性が確保されているのです。専門性を高めようとするれば、そこには他の分野からのアプローチを必要とする、あるいは参考にする場面に遭遇します。横断的、融合的、複合的などの言葉に象徴される学問の広がりを経験することになります。このことは、皆さんに課題解決の糸口を提供するだけでなく、皆さんの個性的な智を具備する大きな力となります。このように本学のグローバルワンキャンパスは、類稀な環境

と言えます。さらに言えば、皆さんは、留学、研修や、国際機関、企業により提供される授業、国内外の要人との対話、そして海外を含む高度なインターンの機会など、挑戦的な機会を得ることも容易にできます。

多様性のある環境下で、異なる考え方に触れ、自身の経験値を高めることで個性を育み、人間としての成長を図るために、皆さん自身のデザインによって、この上智大学の環境を利用、活用していただきたいと思います。時間との向き合いは、大学になるとエキサイティングなものに変貌します。まず、皆さんの時間の使い方に対する動機、きっかけは、その自由度が圧倒的に増すことになります。それは、日々の延長ではなく、また日々の補完的でもない時間の過ごし方を模索することができるからです。例えば、日々の環境とは全く異なる、日々過ごす世界とは180度反対側の世界に触れる経験もできます。手を伸ばしても少し届かない壁を突破する試行錯誤も可能です。そこで生じる失敗はとてつもなく大きな糧を生み出します。これらの経験は、皆さんに個性的で、豊かな人間の軸を与えることになるでしょう。

先ほど、カトリック・イエズス会センター長(*)からマタイによる福音書の一節が紹介されました。子供のように、あるいは自分を低くしてという言葉に象徴されるように、私たちは常に知的謙虚さが求められています。生涯にわたって、世の中の新しい知識に向かい、低い姿勢を保ち謙虚に学び取る構え方を忘れてはなりません。人間の成長とは、自分の姿勢を低くすることから始まります。この機に自分らしく歩み続ける学びの姿を見出してください。

For Others, With Others という上智大学の教育精神は、変わりゆく社会の中にあっても、ぶれることなく本学が追求、尊重し続けている精神基盤です。皆さんが、学び続けながら人間的成長を果たしていく中で、あるいは社会の中で役割を担う中で、常に強い意識を向けて頂きたいと思います。上智大学という学びの環境で、弱い立場に置かれた人々のために、他者に寄り添うソフィアンとしての成長を個性的に遂げられることを祈念して、私の式辞とさせていただきます。

ご入学誠におめでとうございます。

2024年4月1日

上智大学長 曄道佳明

(*)午前の部：カトリック・イエズス会センター長

午後の部：カトリック・イエズス会センター フィルマンシャー神父